

平成 30 年度 第 6 回広島市感染症対策協議会

平成 30 年 10 月 15 日

【日 時】 平成 30 年 10 月 15 日 (月) 19:00～20:00
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、新甲さなえ、
堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、安井 耕三、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

(1) インフルエンザの発生状況について (資料 1 P1～12)

平成 30 年 10 月 2 日、広島市内において、今シーズン初めてのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告(幼稚園)があった。その後、園医の協力を得て、当該園児等のウイルス分離を行ったところ、インフルエンザ A (H1N1) pdm が検出された。

本市におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の初発報告は、過去 10 年(新型インフルエンザの発生があった 2009-10 シーズンを除く)で最も早い報告となっており、今後、本格的な流行シーズンを迎えることが予想されることから、市民に対し、手洗いや咳エチケットの励行など予防方法等について呼びかけを行っている。

なお、今年度も本日(10 月 15 日)から、65 歳以上の市民を対象に、インフルエンザの定期予防接種事業を開始した。

(委員意見)

今後の流行に備え、市民への予防啓発を継続していただきたい。

(2) 風しん対策について (資料 1 P13～35)

2018 年第 40 週(10 月 12 日)現在、全国の風疹患者累積報告数は 1,121 件と 2013 年(14,344 件)、2012 年(2,386 件)に次ぐ報告数となっている

本市においても平成 30 年 8 月 27 日以降、4 件の風しん患者発生届出があった。患者は全て男性で、20 代 1 名、40 代 2 名、50 代 1 名となっており、30～50 代の男性患者が多い全国の動向と一致する。4 件とも国内感染と推定されるが、現在のところ、感染の拡大は確認されていない。

このような状況を踏まえ、国は平成 30 年 8 月 14 日付けで「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起について(協力依頼)」を発出したところであるが、これに加え、10 月 2 日、発生届出数が増加している東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県及び愛知県の 5 都県、都道府県労働局及び日本産婦人科医会に別途通知を発出し、特に妊婦を守る観点から、診療に関わる医療関係者、これまで風しんにかかっている方、風しんの予防接種を受けていない方及び妊娠を希望する女性等への注意喚起等、更なる注意喚起を呼び掛けている。

本市においても、引き続き、ホームページ等により、これまで風しんにかかったことがなく、予防接種を受けていない年代の方について、この機会にワクチン接種を検討いただくよう周知している。

(委員意見)

広島市内でも患者が発生していることから、引き続き、市民への注意喚起を継続していただきたい。

(3) エイズ/梅毒発生動向について (資料 1 P36～47)

平成 30 年 8 月 27 日、厚生労働省エイズ動向委員会は、平成 29 年におけるエイズ発生動向を公表した。

これによると、平成 29 年の新規 HIV 感染者報告数、エイズ患者報告数はそれぞれ 976 件(過去 11 位)、413 件(過去 11 位)、合計 1,389 件となっている。

いずれの感染経路も、性的接触によるものが 8 割以上で、特に男性同性間性的接触によるものが多くを占めている。感染発覚時にエイズを発症している患者の割合が依然として約 3 割のまま推移していることから、本市においても、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していく。

一方、梅毒患者についても、依然として報告数が多い状況が続いている。平成 30 年 10 月 12 日現在、全国の報告数は 5,246 件、本市の報告数は 91 件となっており、本市においてはすでに昨年の報告数(62 件)を大幅に上回っている。

このことから、本市においては、引き続きホームページによる梅毒検査の周知を行う

とともに、今後、H I V検査イベント時に梅毒検査を同時に行うなど、受検促進を図る取組を推進していく予定である。

(委員意見)

梅毒対策は急務であり、検査を受けやすい体制づくり、啓発活動の強化に取り組んでいただきたい。

2 9月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	9月分	10月分
		報告 9/3~9/30	報告日 10/1~10/12 現在
2類	結核	7人 (結核5人、潜在性結核2人)	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2人 (9/7、9/7)	1人 (10/12)
4類	E型肝炎	2人 (9/10、9/21)	
	日本紅斑熱		1人 (10/11)
	レジオネラ	4人 (9/6、9/12、9/20、9/25)	
5類	アメーバ赤痢	1人 (9/28)	
	ウイルス性肝炎	1人 (9/19)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2人 (9/18、9/19)	1人 (10/2)
	急性脳炎	1人 (9/20)	
	後天性免疫不全症候群	1人 (9/10)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人 (9/12)	
	梅毒	9人 (9/10、9/14、9/14、9/18、9/27、9/27、9/27、9/28、9/28)	4人 (10/1、10/2、10/3、10/4)
	百日咳	6人 (9/3、9/20、9/20、9/20、9/26、9/26)	5人 (10/1、10/3、10/3、10/9、10/10)
風しん	3人 (9/3、9/7、9/26)		

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 平成30年11月19日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：9月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（10月分）

平成30年10月15日

1 患者情報

(1) 概要

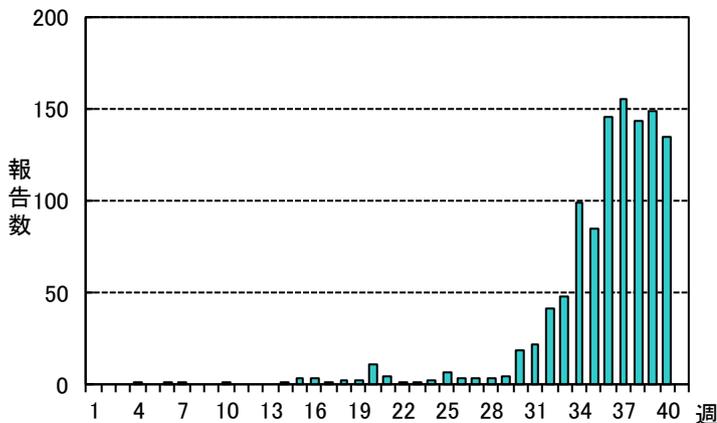
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、9月は1,166人で、前月比1.14とやや増加した。

手足口病、流行性耳下腺炎は増加、感染性胃腸炎はやや増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、突発性発しん、流行性角結膜炎はほぼ横ばい、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症はやや減少、インフルエンザは大きく減少した。

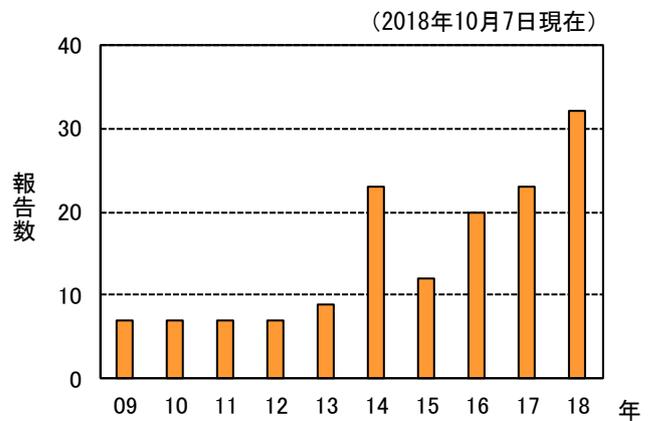
(2) 特記事項

- 全国の風しんの累計報告数は1,103件(第40週現在)となり、2008年の全数届出開始以降、今年(2018年)は2013年(14,344件)、2012年(2,386件)に次ぐ報告数となっている。2012、2013年の流行に関連した先天性風しん症候群は45件報告されており、妊婦への感染を防止することが重要である。風しん予防には、予防接種が最も効果的であることから、定期予防接種対象者は早めに接種を受けることを推奨する。また、妊婦を守る観点から、風しんにかかったことがなく、予防接種を受けていない人は予防接種を受け、風しんの感染拡大を防止することが重要である。なお、広島市では、第40週現在、8件報告されている。
- レジオネラ症は、32件の報告があり(10月7日現在)、過去最多報告数(2017年の23件)を上回った。男性28件、女性4件で、患者の84%を50歳以上の男性が占めている。
- 10月2日に、今シーズン初めてインフルエンザ様疾患による学級閉鎖が報告された。本格的な流行を前に、早めに予防接種を受けることを推奨する。また、健康管理に十分注意し、手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけることが重要である。なお、第40週(10月1日～10月7日)は15人(定点当たり0.41人、A型14人、B型1人)の報告があった。

全国の風しん週別報告数(2018年第1～40週)



レジオネラ症の年間報告数の推移(広島市)



(3) 9月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 7件(患者：5件、潜在性結核：2件)
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症：E型肝炎 2件 レジオネラ症 4件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件 ウイルス性肝炎 1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件 急性脳炎 1件
後天性免疫不全症候群 1件 侵襲性肺炎球菌感染症 1件
梅毒 9件 百日咳 6件 風しん 3件

(4) 今後の流行予測

感染性胃腸炎・・・【流行始まり】

2 検査情報

9月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
感染性胃腸炎	アデノウイルス 41 型	7 月	1 人
	アデノウイルス 2 型	8 月	1 人
	エコーウイルス 11 型	8 月	1 人
手足口病	コクサッキーウイルス A6 型	7 月	1 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A2 型	7 月	1 人
	RS ウイルス	8 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 54 型	8 月	4 人
	アデノウイルス 56 型	8 月	1 人
無菌性髄膜炎	エコーウイルス 11 型	7 月	1 人
流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	6 月	1 人
その他の消化器疾患 (腸重積症)	アデノウイルス 2 型	7 月	1 人
	エコーウイルス 11 型	7 月	1 人
	*アデノウイルス 1 型	7 月	1 人
	*エコーウイルス 11 型		
その他の眼疾患	アデノウイルス 54 型	8 月	1 人
その他の疾患 (敗血症)	エコーウイルス 11 型	7 月	1 人
その他の疾患	エコーウイルス 11 型	7 月	2 人

*: 複数病原体検出例

20 人の患者から 10 種類のウイルス 21 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、エコーウイルス 11 型 7 株、アデノウイルス 54 型 5 株、アデノウイルス 2 型 2 株、アデノウイルス 1 型、同 41 型、同 56 型、RS ウイルス、コクサッキーウイルス A2 型、同 A6 型、ムンプスウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(平成30年9月解析分)

1. 週報対象(第36週～第39週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		9	0.24		10	流行性耳下腺炎		23	0.97	
2	咽頭結膜熱		25	1.05		11	RSウイルス感染症		134	5.58	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		180	7.50		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		405	16.88		13	流行性角結膜炎		49	6.13	
5	水痘		20	0.83		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		205	8.55		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		7	0.29		16	マイコプラズマ肺炎		2	0.29	
8	突発性発しん		35	1.46		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		57	2.37		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.14	

2. 月報対象(9月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		38	4.22
2	性器ヘルペスウイルス感染症		16	1.78
3	尖圭コンジローマ		5	0.56
4	淋菌感染症		10	1.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		11	1.57
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0.29
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		1	0.14

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(平成30年9月分)

第36週～第39週(9月3日～9月30日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	7	100	1,797	16,107
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	3
	16 細菌性赤痢	-	-	8	119
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	6	524	3,205
	18 腸チフス	-	1	2	24
	19 パラチフス	-	-	3	17
四類	20 E型肝炎	2	4	43	334
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	78	784
	23 エキノコックス症	-	-	1	9
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	5
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	5
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	3
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	2
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	6	64
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	1
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 テクングニア熱	-	-	-	3
	40 つつが虫病	-	1	2	99
	41 デング熱	-	2	30	139
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	4	49	212
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	3
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	2
	55 マラリア	-	-	6	39
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	3	10
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	2
	61 レジオネラ症	4	30	276	1,537
	62 レプトスピラ症	-	-	15	20
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	1	8	69	629
	65 ウイルス性肝炎	1	3	21	173
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	7	230	1,528
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	15	44
	68 急性脳炎	1	5	28	516
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	11
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	16	157
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	48	533
	72 後天性免疫不全症候群	1	8	100	970
	73 ジアルジア症	-	-	3	55
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	30	360
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	3	28
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	10	102	2,429
	77 水痘(入院例に限る。)	-	1	28	319
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	9	87	558	5,081
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	11	137
	81 破傷風	-	1	12	89
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	7	57
84 百日咳	6	44	1,373	6,941	
85 風しん	3	8	590	952	
86 麻しん	-	-	11	214	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	3	17	